

ユーザーは巨大な利益を港運に還元せよ！23秋年末闘争中央行動！



厚労省交渉



国交省交渉



国交省前集会



丸の内デモ行進



日本防易会交渉



外船協交渉



経産・エネ庁交渉

NO WAR



港湾を
兵站基地
にするな！

今、船員と海運界は直接戦争の犠牲者となっている。また、運航船社(用船社)は船員を戦争の犠牲者として扱っている。一連のイスラエルとイスラム組織ハマスとの衝突激化を背景に、イスラエル系船主が保有するとみられる自動軍艦が紅海で拿捕された。そして、どうも親イスラム武装組織フーシはミサイルやドローンを使用しコテナ船やその他商船に対して攻撃を行った。このように商船に対する武力攻撃が日常的に繰り返されている。『商船と一般民衆の船員』がである。『また』信じられないことが、日常的に繰り返されているのだ！

全国港湾機関紙読者の仲間が、この現状において直接戦争の犠牲者となっている。『我々港湾労働者は、23秋、日常的に繰り返されている。』

既に24港湾春闘は始まっている。『港湾を兵站基地にするな！』の運動の真価が問われている。

『3木曜日』『港湾を兵站基地にするな！』の訴えを港労連委員長 竹内 一

港湾を兵站基地にするな！
港湾労働者と戦争を考える⑩
今、船員と海運界は戦争の犠牲に直面している！



山賀 茂
(日本港湾事務局)

新潟港で秋年末闘争勝利決起集会を開催

去る、11月27日(月)夕 闘争勝利決起集会に組合員総勢100名が参加し盛況に開催されました。

最初、鈴木委員長、新潟港議事長、から中央情勢や地方港の実態、国の港湾政策に触れ、厳しい状況であるがこの秋年末、一時金闘争を生活防衛闘争と位置づけ交渉に臨む決意が述べられました。

また、全日通、日検、全検の労働組合代表者から連帯の挨拶がありました。各単組、各分会の団交に臨む決意表明があり、たまたか体制の構築と強化が求められ、組合員の拍子確認されました。

最後に本間青年部長の力強い団結カンパロで締めくくりました。

大幅賃上げ実現！